

2025年5月8日

Osaka Metro Group

2024年度（2025年3月期）決算

1. 2024年度 連結損益計算書（総括）

2024年度の営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の増加、都市開発事業の不動産販売による増加により、187億円の増加。

営業利益は、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加、万博関連対応に伴う費用の増加があったものの、営業収益の増加により、34億円の増益。

（単位：億円）

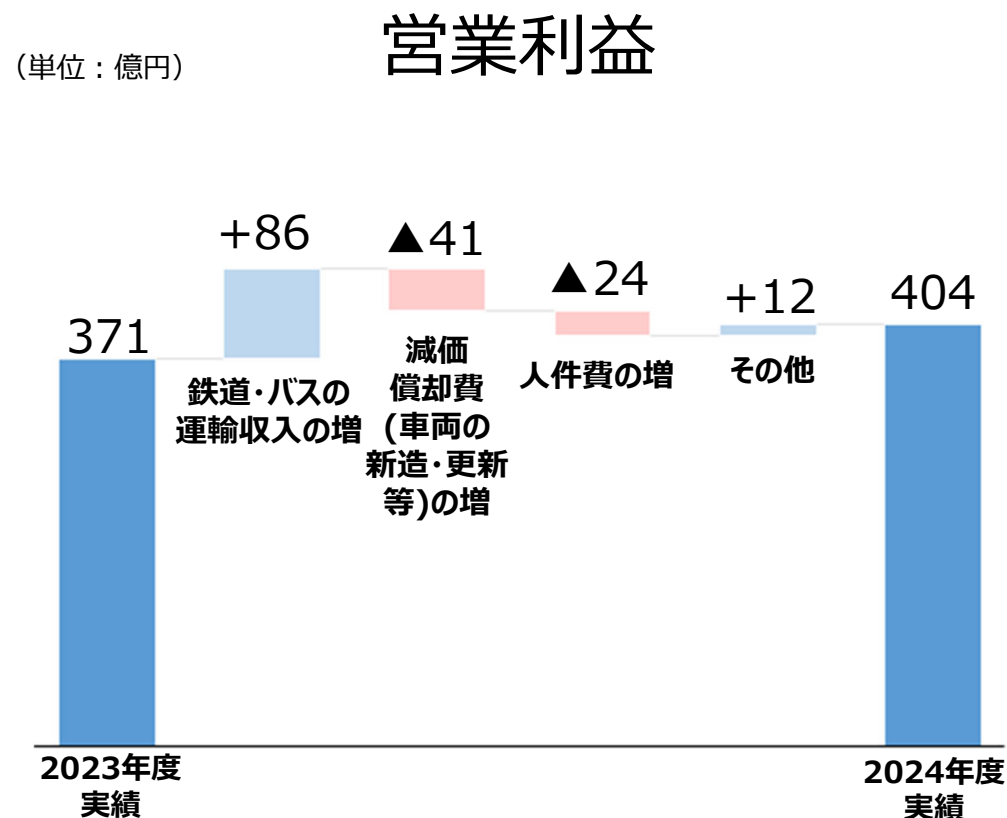
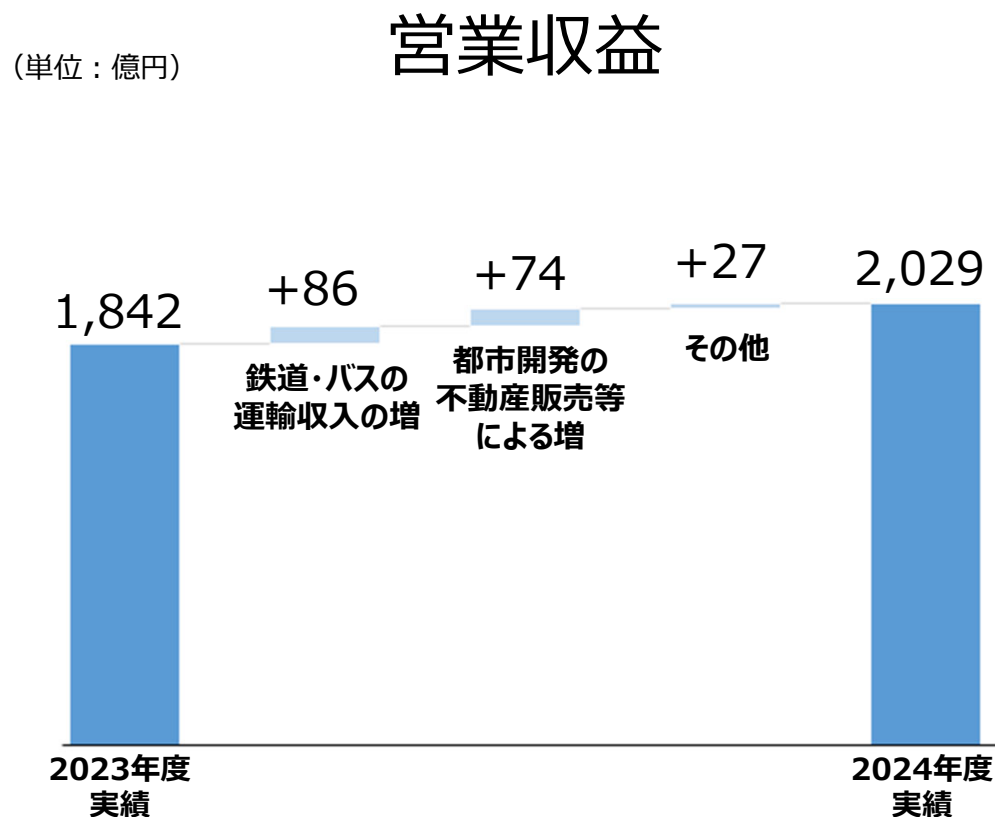
	2024年度 実績	対前年度 増減
営業収益	2,029	+187 (+10.2%)
営業費用	1,625	+154 (+10.4%)
営業利益	404	+34 (+9.0%)
営業外損益	▲8	▲13
経常利益	396	+21 (+5.5%)
特別利益	117	+42
特別損失	90	+39
法人税等	128	+5 (+4.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	293	+19 (+7.0%)

【参考】

2024年度 4Q（1-3月）	対前年同期 増減
506	+44 (+9.4%)
455	+57 (+14.2%)
51	▲13 (▲20.4%)
▲7	▲6
44	▲19 (▲29.9%)
103	+42
79	+41
19	▲8 (▲30.8%)
51	▲9 (▲14.7%)

2. 2024年度 営業収益・営業利益の増減要因（対 前年度）

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入および都市開発事業の不動産販売収入の増加により増収。
営業利益は、減価償却費や人件費の増加等があったものの、営業収益の増加により増益。



3. 2024年度 セグメント別の状況（総括）

鉄道事業・都市開発事業・広告事業においては増収増益を達成。
バス事業は、運輸収入が増加したものの、運転士確保の費用増により増収減益、
マーケティング・生活支援サービス事業は、地下街や駅ソトの直営店舗の収益貢献等により
増収となったものの、地下街リニューアルに係る費用の発生等により増収減益。

（単位：億円）

【参考】

	2024年度 実績		対前年度 増減		2024年度 4Q（1-3月）		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	2,029	404	+187（+10.2%）	+34（+9.0%）	506	51	+44（+9.4%）	▲13（▲20.4%）
交通事業	1,816	367	+103（+6.0%）	+18（+5.0%）	454	47	+24（+5.5%）	▲17（▲26.0%）
鉄道事業	1,703	365	+102（+6.4%）	+19（+5.4%）	426	47	+21（+5.2%）	▲19（▲29.3%）
バス事業	148	3	+14（+10.2%）	▲1（▲26.5%）	40	0	+7（+19.9%）	+3（－）
セグメント内取引消去	▲36	（－）	▲13（－）	（－）（－）	▲12	（－）	▲4（－）	（－）（－）
マーケティング・ 生活支援サービス事業	126	6	+9（+7.2%）	▲4（▲44.1%）	34	▲2	+4（+15.2%）	▲2（－）
都市開発事業	98	24	+74（+297.3%）	+19（+414.4%）	21	3	+15（+232.9%）	+4（－）
広告事業	42	7	+5（+14.0%）	+1（+19.3%）	13	2	+2（+22.3%）	+1（+28.3%）
その他	▲53	0	▲3（－）	▲0（▲34.5%）	▲16	▲0	▲2（－）	+1（－）

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 2024年度 交通事業の状況

営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の増加、沿線観光資源の発掘・情報発信や各種キャンペーンなどの増収施策により、103億円の増収。

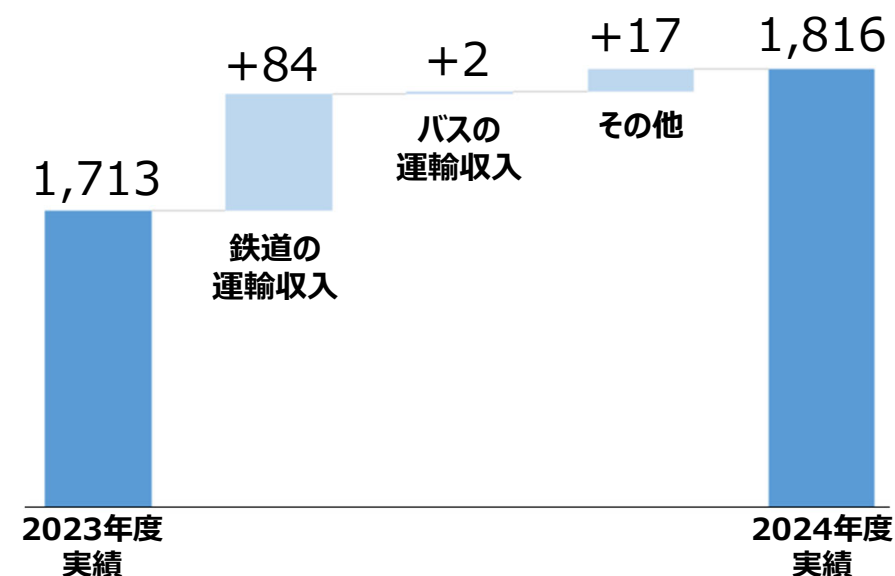
営業利益は、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加、万博関連対応に伴う委託費の増加があったものの、運輸収入の増加により、18億円の増益。

(単位：億円)

	2024年度 実績	対前年度増減	【参考】 2024年度4Q (1-3月)	対前年同期増減
営業収益	1,816	+103 (+6.0%)	454	+24 (+5.5%)
営業利益	367	+18 (+5.0%)	47	▲17 (▲26.0%)

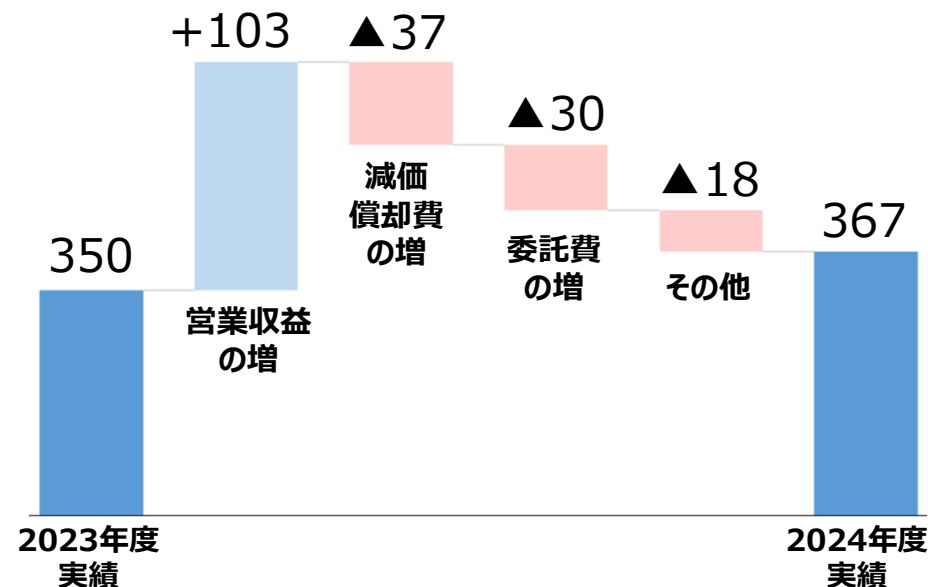
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



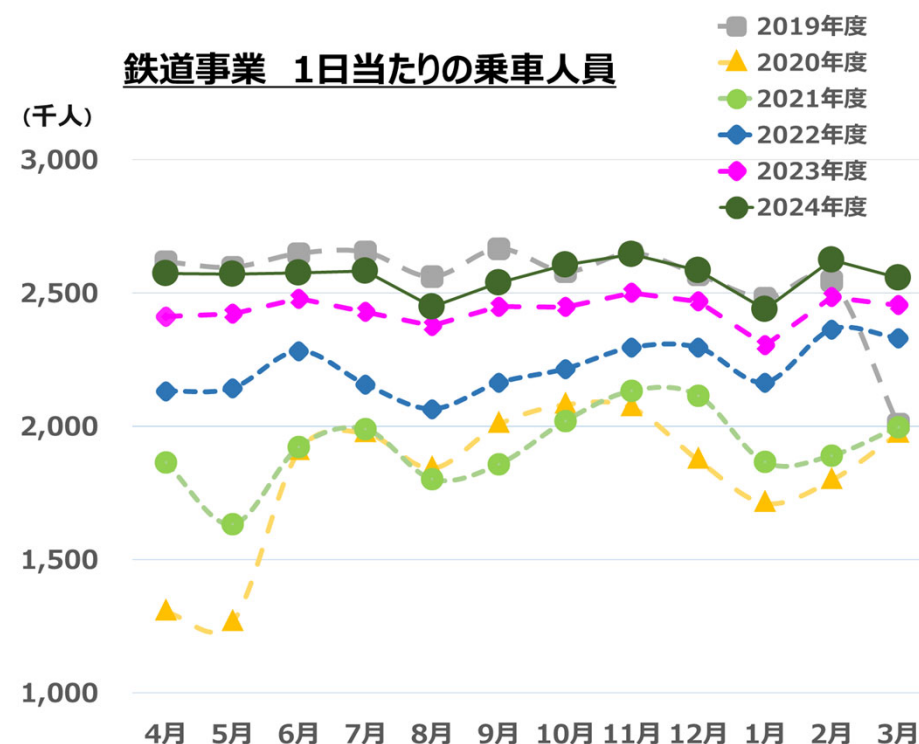
4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

乗車人員は、前年度から44百万人（+4.9%）増加。
 運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、84億円（+5.6%）増加。
 第4Q比較でも同様の傾向であり、乗車人員は9百万人増、運輸収入は18億円増。

（単位：千人、億円）

【参考】

		2024年度 実績	対前年度 増減	2024年度 4Q（1-3月）	対前年同期 増減
乗車人員	合計	934,990	+43,623 (+4.9%)	228,449	+8,862 (+4.0%)
	定期	466,607	+16,323 (+3.6%)	111,867	+3,453 (+3.2%)
	定期券	333,555	+18,043 (+5.7%)	80,584	+4,293 (+5.6%)
	マイスタイル	133,052	▲1,721 (▲1.3%)	31,283	▲840 (▲2.6%)
	定期外	468,384	+27,301 (+6.2%)	116,581	+5,409 (+4.9%)
運輸収入	合計	1,595	+84 (+5.6%)	395	+18 (+4.9%)
	定期	642	+21 (+3.5%)	157	+4 (+2.7%)
	定期券	413	+24 (+6.3%)	101	+5 (+5.6%)
	マイスタイル	229	▲3 (▲1.3%)	55	▲1 (▲2.1%)
	定期外	953	+63 (+7.1%)	238	+14 (+6.3%)



4-(1). 万博への貢献を意識した交通事業の主な取り組み

大阪・関西万博の成功に向け、ご来場者の皆さまを会場にお運びするための輸送力確保のため、鉄道の輸送力大幅増強、会場内外でのバス運行、自動運転の実証に向けた取り組みを進め、全ての準備を完了。また、万博会期中の期間限定でオンデマンドバスの運行を中央線の沿線エリアで開始。

鉄道の輸送力増強の取り組み

<新型車両>

中央線新型車両(400系)を10列車追加で導入。



<夢洲駅>

2025年1月19日に夢洲駅開業。
大阪・関西万博会場へ直接乗り入れる
唯一の鉄道アクセスルートが誕生。



<移動経路の設定・整備>

弁天町駅にて、混雑緩和のため乗換連絡通路の新設工事
(JR西日本と共同)と階段の改良工事を実施。
弁天町・本町駅では、移動経路を複数設定し動線を整備。



会場内外でのバス輸送の取り組み

<EVバス・自動運転EVバス>

EVバス174台の導入を完了。
※一部は、路線バスとして利用
舞洲パークアンドライドの一部区間で、
国内初となる一般道における
大型EVバスでの自動運転車(レベル4)の
認可を2025年2月18日に取得し、
会場内外でのバス運行の準備を完了。



<オンデマンドバス 運行エリア拡大(期間限定)>

2024年11月に森之宮エリア、2025年1月に西エリア、
港エリアで期間限定でのオンデマンドバス運行を開始。
(いずれも2025年10月末までの運行)



4-(1). 万博への貢献を意識した交通事業の主な取り組み

大阪・関西万博のメインアクセスとしての使命を果たすべく、訓練の実施や新たな設備の導入・改善及び駅の大規模リニューアル等の安全・安心・快適の取り組みに加え、改札機の対応券種の多様化や混雑の可視化等のお客さまサービス向上の取り組みを推進。

安全・安心の取り組み

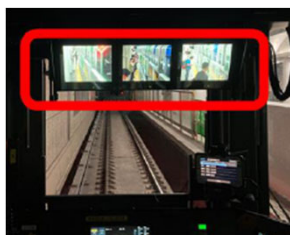
<総合訓練の実施>

大阪・関西万博開催期間中の有事発生を想定し、警察・消防と合同訓練を実施。



<安全設備の導入>

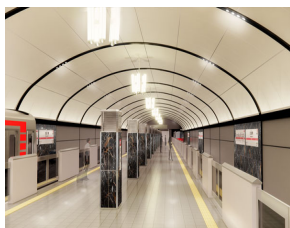
中央線において、車側監視テレビジョンシステムや定位置停止装置（TASC）、車内防犯カメラを装備し、駅ホーム部及び車内の安全性を大幅に向上。



車側監視テレビジョンシステム

<地下空間の大規模改革>

中央線 大阪港駅、堺筋本町駅の2駅をリニューアルし、合計7駅が完了済み。残り8駅中、7駅は2025年4月に完了。最後の谷町四丁目駅は夏頃に完成予定。



お客さまサービスの向上

<タッチ決済・デジタル(QR)乗車券>

大阪・関西万博に向けたキャッシュレス・チケットレス改札の取り組みとして、クレジットカードタッチ決済とQRコード(※)でのデジタル乗車券サービスを開始。



<顔認証改札サービス>

2025年3月25日からデジタル(QR)乗車券と紐づけた顔認証改札サービスを全路線で開始。



<混雑状況の可視化>

e METROアプリで大阪・関西万博の主要アクセスルートである御堂筋線、中央線の車両毎の混雑状況を確認できる機能を追加。2025年3月に、主要駅の時間別混雑状況の確認ができるサービスを開始。

<ロッカー情報等可視化サービス>

e METROアプリで、各駅のロッカー情報を確認できるサービスや、夢洲駅のトイレ施設の利用状況を確認できるサービスを開始。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

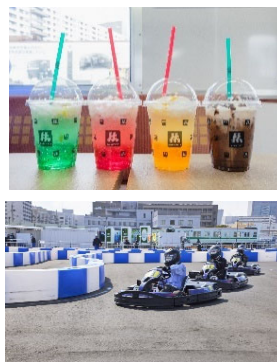
4-(1). 万博への貢献を意識した交通事業の主な取り組み

大阪・関西万博の開催にあたり、「e METRO MOBILITY TOWN」の開設による万博への機運醸成に取り組んだほか、大阪ヘルスケアパビリオンでの出展準備を完了。また、空飛ぶクルマの離着陸場を整備、ニューモビリティの実現に向けた新たな取り組みを実施。

機運醸成の取り組み

<未来モビリティ体験型テーマパーク>

未来の交通や生活をリアルとバーチャルで体験しながら楽しく学べるテーマパーク「e METRO MOBILITY TOWN」を期間限定でオープン(2025年1月～10月)。EVゴーカートや自動運転EVバス体験などのコンテンツを提供。



<e METROアプリで万博チケットを販売>

2024年11月1日から、e METROアプリで万博の入場チケットを発売中



万博会場での取り組み

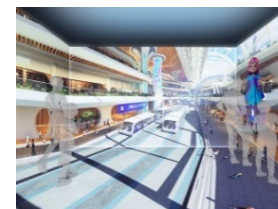
<大阪ヘルスケアパビリオンの出展>

「便利な交通により大きく変化した未来の大阪の街」を映し出すスタンディング形式の没入シアター「ニューモビリティ・ニューライフ」を出展。

※イメージ図



<没入シアター外側>



<没入シアター内側>

新しい取り組み

<空飛ぶクルマ>

大阪・関西万博で株式会社SkyDriveが開発した「空飛ぶクルマ」のデモフライト時に使用する離着陸場「大阪港パーティポート」を整備。2025年3月28日に大阪市と共催で竣工セレモニーを開催。



4-(1). それ以外の交通事業（鉄道、バス、タクシー）の主な取り組み

大阪・関西万博に向けた直接的な取り組みに加え、安全・安心に向けた取り組み・お客さまサービスの向上に向けた取り組み・増収に向けた取り組みなどの基本的な取り組みも着実に推進。
更に、365日24時間のお客さまの移動ニーズにお応えするため、タクシー事業に参入し、運行を開始。

安全・安心の取り組み

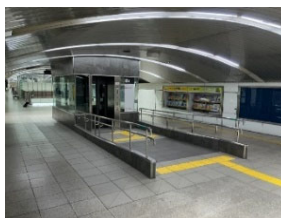
<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく、夢洲駅を含め24駅で供用開始。
(2025年度末までに全駅設置予定)



<エレベーターの増設>

バリアフリー経路の複線化として江坂駅、梅田駅、長堀鶴見緑地線 森ノ宮駅でエレベーターを増設。



<EDSSの搭載>

新たに導入するバス全車両に、ドライバー異常時対応システム（EDSS）を導入。

お客さまサービスの向上

<AI見守りシステムの導入>

白杖または車いすご利用のお客さまに早期に気付き、必要なサポートや見守りに役立てるためのAI見守りシステムの運用を46駅で開始。

増収に向けた取り組み

<デジタル乗車券を期間限定で発売>

大阪・関西万博の会場を訪れるお客さまや午後からの来阪、連泊などお客さまの移動スタイルに合わせてご利用いただける26時間券、48時間券を夢洲駅開業日から発売。

<キーワードラリーイベントの実施>

「おでかけKID'S PASS」でバスに乗って大阪市内にある歴史スポットを巡るキーワードラリーを実施。

<LINE公式アカウントの開設>

キャンペーンや沿線おすすめスポット等のバスに関する情報提供ツールとしてLINE公式アカウントを開設。

タクシー事業

ナショナルタクシー株式会社の株式を取得し、OMタクシー株式会社として2024年9月30日より運行を開始。



OMタクシー株式会社が、2025年3月24日に珊瑚タクシー第二株式会社の全株式を取得し、OMタクシー第2株式会社として子会社化。

4-(2). 2024年度 マーケティング・生活支援サービス事業の状況

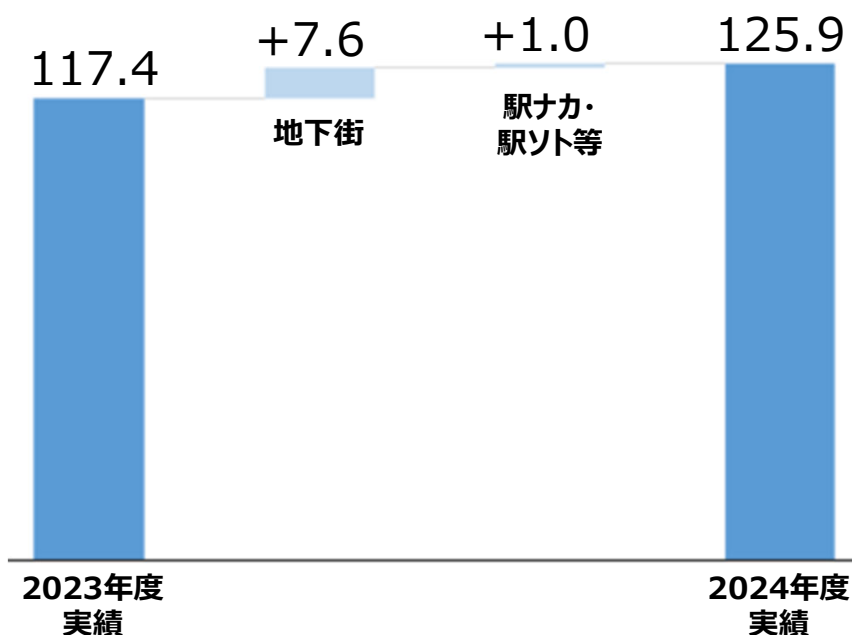
地下街の賃貸料収入の増加や駅ナカ・駅ソトの直営店舗の開業により増収となったものの、地下街リニューアルや飲食店開業に伴う費用が発生したことにより、減益。

(単位：億円)

	2024年度 実績	対前年度増減	【参考】 2024年度4Q（1-3月）	対前年同期増減
営業収益	125.9	+8.5 (+7.2%)	34.0	+4.5 (+15.2%)
営業利益	5.7	▲4.5 (▲44.1%)	▲1.6	▲1.9 (－)

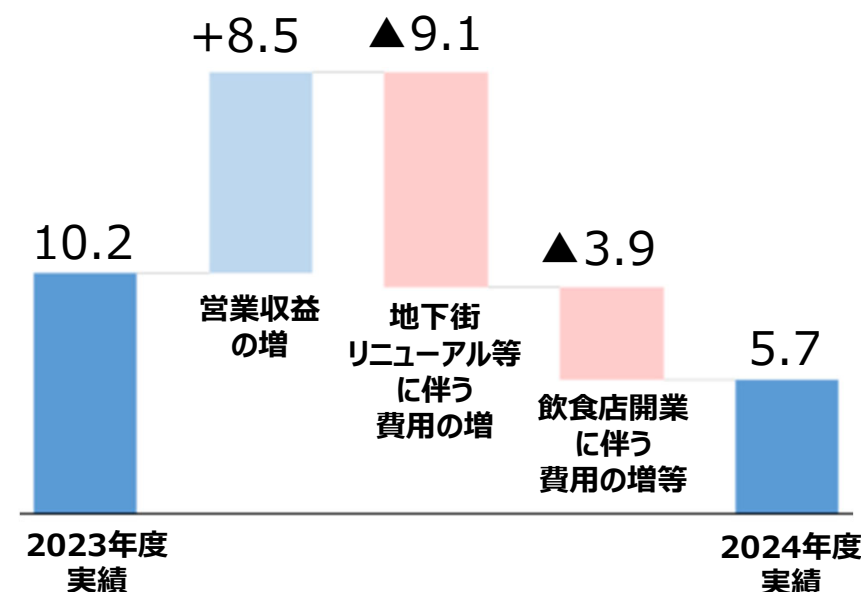
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の主な取り組み

地下街の各リニューアル、子育て支援事業の展開、直営飲食店の開業、週替わりポップアップ店舗の開業など、フィジカル空間でのサービスと利便性を向上し、にぎわいを創出。

地下街

<2つの地下街のリニューアル>

2つの地下街をリニューアル。
2024年11月29日
「ホワイティうめだFARURU西」
2025年3月27日
「NAMBAなんなん」
をそれぞれオープン。



<NAMBAなんなん>

生活支援サービス

<習いごとつき学童保育「えすこーとOsaka Metro都島駅前校」を開校>

Osaka Metro初の子育て支援事業として本校を開校。
仕事と子育ての両立のサポートや、学校が終わってから家に帰るまでの「生活の場」として子どもの成長の糧となる多様な体験や学習機会を提供する。



駅ソト

<直営レストラン2号店の開業>

2025年1月に「Metro KITCHEN 西長堀」が大阪市立中央図書館内にオープン。
『1日中楽しめる「おいしい」と「愛」がここにある』をコンセプトに、図書館利用者の利便性はもちろん、近隣の親子連れの好奇心をそそるようなメニューや大阪公立大学の監修による「からだが喜ぶメニュー」を提供。



駅ナカ

<『Metro Opus』10店舗目を開業>

週替わりポップアップ店舗『Metro Opus』は「いつもの通り道に、とっておきの出会いを。」をコンセプトとして掲げ、2024年度に7店舗（心斎橋・天王寺西・天満橋・なかもず・喜連瓜破・谷町九丁目・本町）を開業。



4-(3). 2024年度 都市開発事業の状況

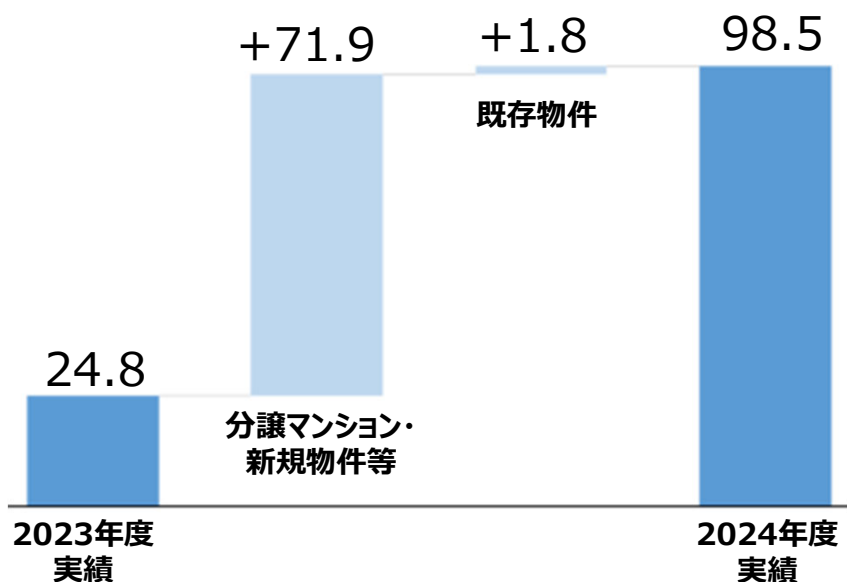
新築分譲マンションの販売のほか、前年度末に竣工した商業オフィス複合ビル・新築賃貸マンションによる賃料収入の増加などにより、増収増益。

(単位：億円)

	2024年度 実績	対前年度増減	【参考】 2024年度4Q（1-3月）	対前年同期増減
営業収益	98.5	+73.7 （+297.3%）	21.4	+15.0 （+232.9%）
営業利益	23.9	+19.3 （+414.4%）	3.5	+3.9 （-）

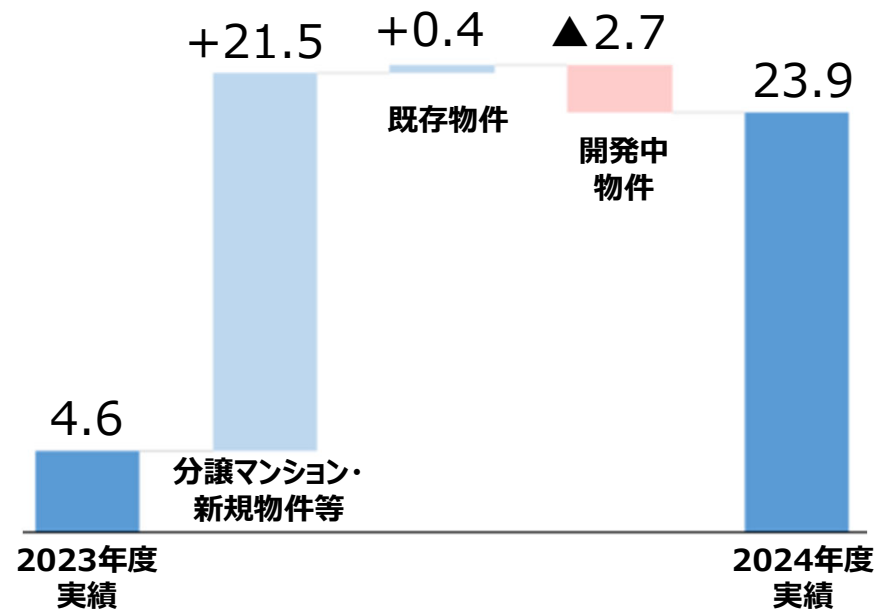
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



4-(3). 都市開発事業の主な取り組み

Osaka Metro初の分譲マンション「メトライズタワー大阪上本町」を販売。
移動需要の増加を促進する駅周辺エリアにおいて、
新築分譲マンションや商業施設など市内中心部の魅力向上につながる開発を強化。

メトライズタワー大阪上本町

Osaka Metroの新築分譲マンションブランド
「METRISE(メトライズ)」シリーズ第1弾。

谷町線・千日前線
谷町九丁目駅徒歩3分、
地上29階・総戸数135戸。
2024年7月に引き渡し完了し、
全戸完売。



メトライズ森ノ宮中央

「METRISE(メトライズ)」シリーズ第2弾。

中央線・長堀鶴見緑地線
森ノ宮駅徒歩5分、
地上15階・総戸数98戸。
2025年4月から引き渡しを開始し、
ほぼ全戸完了。



METRO TERRACE UEHOMMACHI

2024年8月、メトライズタワー大阪上本町の
1階～3階に商業施設をオープン。

ピラティススタジオ・理容室・皮膚科・
歯科・耳鼻科の5つのテナントが開業。



4-(4). 2024年度 広告事業の状況

新規媒体の設置や積極的な販売活動に取り組んだことにより、増収増益。

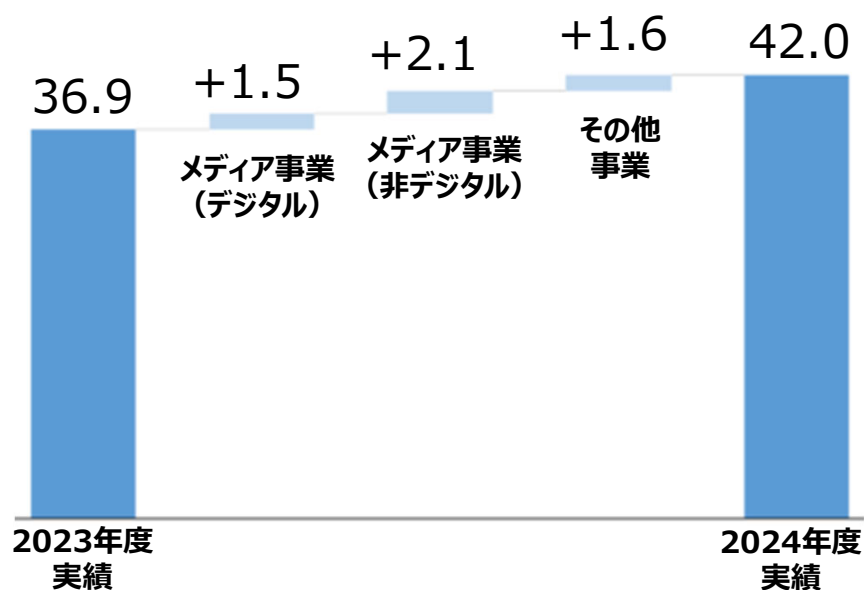
(単位：億円)

【参考】

	2024年度 実績	対前年度増減	2024年度4Q（1-3月）	対前年同期増減
営業収益	42.0	+5.2 (+14.0%)	12.7	+2.3 (+22.3%)
営業利益	7.2	+1.2 (+19.3%)	2.3	+0.5 (+28.3%)

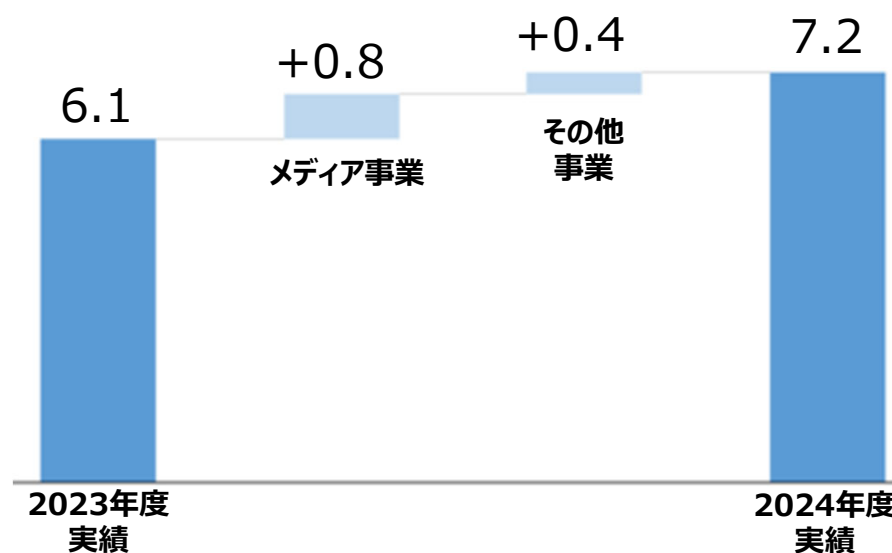
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



4-(4). 広告事業の主な取り組み

万博の開催に向けた主要商品の販売や交通広告の価値向上に向けた取り組みを推進。
ローカルガイド事業「Osaka JOINER」などにより、インバウンド需要を確実に獲得。

メディア事業

大阪・関西万博の開催に向けた特別商品を販売。
会場動線である夢洲駅の巨大出入口空間において、
大型シート広告等で空間を演出。

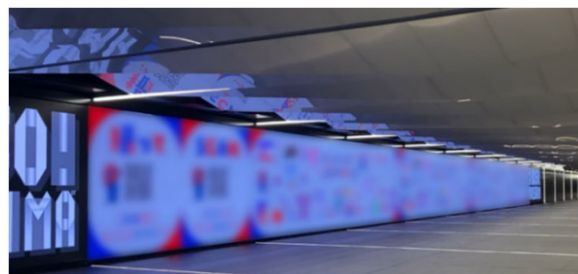
<夢洲ドリームゲートシート>



長さ約65m、
幅約19m、
地上高約9.7mの
大型シート広告。

<夢洲LEDビジョン>

縦3m×横55m、
音声ありの大型LED
サイネージ広告。



デジタル領域の取り組み

<アートギャラリー「空飛ぶメトロ」>

大阪・関西万博のバーチャル
会場に大阪メトロアドエラ
PRルームを出展。
仮想空間の車両内にワープし、
車両に座って楽しめる
コミュニケーションの場を提供。



新規事業

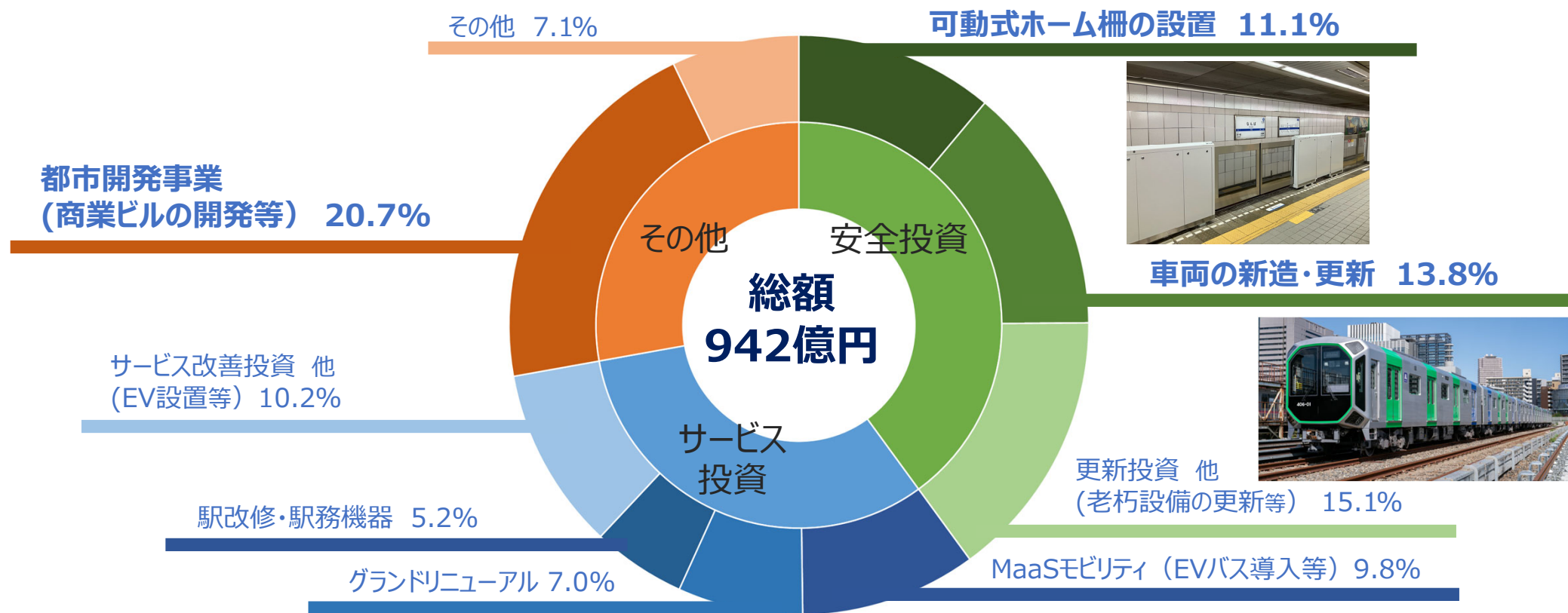
<欧米豪向けインバウンド事業「Osaka JOINER」>

欧米豪旅行者に人気の
ローカルガイドツアーサービス。
2025年3月に旅行業を
取得し、近隣県や空港からの
観光付き送迎なども可能に。

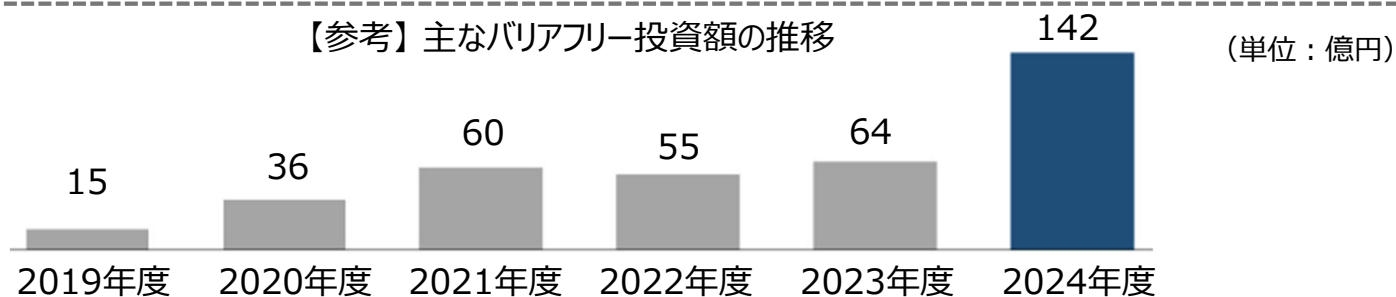


5. 2024年度 投資の状況

車両の新造・更新やEVバスの導入などを積極的に行う一方、可動式ホーム柵の設置やエレベーターの設置などのバリアフリー投資、都市開発事業の商業ビルの開発等も着実に実施。



【参考】主なバリアフリー投資額の推移



6. 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表 : 投資増に伴い、固定資産が616億円、有利子負債が377億円増加。
利益増により、純資産は187億円増加。

連結キャッシュ・フロー計算書 : 営業CFは、税引前純利益は増加したものの法人税の増加等により減少。
投資CFは、上記設備投資等に伴い、560億円の支出増。
フリーCFは、286億円のマイナス。

(単位：億円)

(単位：億円)

	2024年度末	2023年度末	増減	主な増減要因		2024年度実績	2023年度実績	増減
資産	10,495	9,916	+580		営業活動によるキャッシュ・フロー	747	794	▲47
流動資産	562	598	▲37	未収金 ▲31	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,033	▲473	▲560
固定資産	9,934	9,318	+616	投資 +942 減価償却費 ▲497	(フリーキャッシュ・フロー)	▲286	321	▲607
負債	4,501	4,108	+392		財務活動によるキャッシュ・フロー	+304	▲604	+908
流動負債	2,246	2,363	▲117	1年内返済予定の長期借入金 +120 コマーシャル・ペーパー ▲230	現金及び現金同等物の増減額	+19	▲283	+302
固定負債	2,255	1,745	+509	長期借入金 +489	現金及び現金同等物の期末残高	240	221	+19
純資産	5,995	5,807	+187					
現金及び現金同等物	240	221	+19					
有利子負債	3,471	3,094	+377	長期借入金 +489 1年内返済予定の長期借入金 +120 コマーシャル・ペーパー ▲230				
ネット有利子負債	3,232	2,874	+358					
自己資本	5,924	5,739	+185					



**Osaka Metro
Group**